

農業経営者を講師に

特別授業に200人

都立農産高校

東京都立農産高校は1日、園芸デザイン科の生徒を対象に「農産高校農業人フェア」を開き、農業経営者ら8人を講師に招



いた特別授業を行った。

フェアの目的は、就農に必要な知識を生徒に身に付けさせ、進路選択を主体的に考えさせること。（公社）日本農業法人協会が講師派遣に協力し実現した。参加者は3学年合計で約200人。一同、熱心に講師の話に耳を傾けた。写真。

講師を務めた、千葉県柏市で水稲130畝を経営する有沼南ファーム代表取締役の橋本英介さんは、自身の経営や日本の農業が置かれた状況などを説明。「今の農家は70

代、80代の人が多く、この10年以内にたくさんの方がやめてしまう。生産力が低下するということは、これから農業を始めるとしてはチャンスがあるということ」などと呼びかけた。生徒からは農機具にかかる費用や休日の日数などについて質問があがった。

将来、野菜や果樹での就農をめざしているという生徒は「実際に農業を仕事にしている人の話が聞けたことで、農業をやりたいという思いが強くなった」と話した。